

東奥日報

2019年(令和元年) 12月25日(水曜日) (14)

行け！自慢のロボット

八工大生がコンテスト
8チーム、ボール運び競う



ロボットを操作して筒の上にボールを置く学生たち

八戸工業大学のロボットコンテスト(ロボコン)が

八戸

20日、同大で開かれた。機械工学科の3年生40人が8チームに分かれ、工夫を凝らして製作した自慢のロボ

ットの性能を競い合った。ロボコンは「ロボット創作授業」の一環として毎年行っており、今回が22回目。学生たちは4月から設計に取り組み、各チームが2台ずつロボットを製作してロボコンに臨んだ。

競技は1台のロボットが陣地A内にある箱からボール14個を陣地Bに移動し、もう1台がボールを陣地B内にある高さの異なる筒の上に運ぶというもの。ロボットが筒に置いたボールの個数やタイムを競い、予選リーグと決勝トーナメントを行って順位を決めた。

学生は互いに指示を出し合いながら、無線コントローラーを使って操作。ボールを1個ずつ確実に運ぶロボットもあれば、一度に複

数個を扱える優れものもあり、会場は盛り上がった。優勝チームの上田洗樹さん(21)は「仲間と協力して製作したロボットで優勝できて良かった。設計から取り組んだことで理解が深まった」と話した。

(工藤俊介)